

世界の

子どもたちの動き



グローバル・ムーブメント・フォー・チルドレンに関連した会合や行事が行われています。中には子どもたちが参加して、自分たちの抱える問題をアピールし、意見を発信している例もあります。

米国
ニューヨーク

子どもたちの声を ネットに乗せて

ユニセフ事務局長と世界の子どものための「チャット」
(@ニューヨーク、米国: 2001/06/13)

簡単には行き来できない世界の子どもたちが、意見交換をするにはどうしたらいいでしょう？ ユニセフは、インターネットを使って世界各国の子どもが「チャット」をするという企画を実現しました。チャットにはユニセフ事務局長キャロル・ベラミー氏とカナダ上院議員ランドン・ピアソン氏も加わり、次々と書き込まれる子どもたちからの質問に答えました。

チャットに参加した子どもたちからは、自分の国のようすや直面している問題などが発信されました。マレーシアとボリビアから参加した子どもたちは、免許を持っていない医者がいたり、ニセ薬が出回っている問題があることについて盛んに意見交換をしました。ナイジェリアの男の子は、「自分の国のマスメディアはとて子どもに配慮していて、子どもが取材して記事を書いたりできるのだ」と報告してくれました。一方、イスラエルのパレスチナ自治区内ガザ地区に住む男の子は、「報道が政治の強い影響を受けているように感じる」と発信しました。

ネパール
カトマンズ

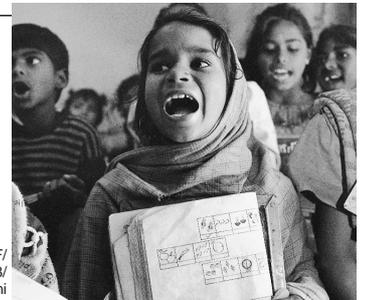
変化を生み出す 子どもたち Change Makers

子どもへの投資に関する
財務大臣・民間の代表者・子どもの三者会議
(@カトマンズ、ネパール2001/05/22-23)

南アジア地域協力連合(SAARC)に加盟する7ヶ国から各界の代表が集まって、子どもの教育、健康、保護事業への投資のありかたを話し合う会議が開かれました。南アジア地域は、国と地域、都会と農村、豊かな人と貧しい人、男性と女性などの間で格差が存在しており、子どもたちの暮らしに影響を与えています。

この会議には、政府関係者、企業の代表者、国際機関やNGO関係者のほかに、子どもの代表団が参加しました。ユニセフやNGOの呼びかけによって参加各国から集まった子どもたちは、「チェンジメーカー - Change Makers (変化を生み出す人)」と呼ばれ、会議で重要な役割を果たしました。

「私たちが望む世界は、男の子と女の子、障害がある人ない人、お金持ちとそうでない人たちの間に差別がない世界です。そして、みんな健康で安全な環境を望んでいます。それから、動かなくてはならない代わりに、よい教育と遊ぶ機会がほ



©UNICEF/
93-1268/
Shehzad Noorani

しいのです」(子どもたちの会議での発言)

会議の終わりには、子どもたちも含め参加者が共同で作成した『カトマンズ合意』が採択されました。この文書では、各国の政策において貧困の中で暮らす子どもへの投資を第一の優先課題とすることが合意され、差別・貧困・暴力から南アジアの子どもを解放するためには、「子どもの権利条約」に従って社会のあらゆる部門が子どもへの投資を促進することが必要である、とされました。

ユニセフの南アジア地区代表のクルチャンドラ・ゴウタム氏は、こう語っています。

「会議は大成功でした。国境や政治的な利害を超えて、子どもへの投資が重要ということに各国が合意できたのです。『カトマンズ合意』は政策決定者に影響を与え、企業も子どもの福祉に関心を持つようになるでしょう」

グルジア
ズグジジ

署名は私たちの メッセージ

(@ズグジジ、グルジア2001/06)

グルジア西部のズグジジの街では、失業や貧困が大きな問題になっています。街ではストリートチルドレンがお金や物をねだっています。彼らのほとんどは学校に通ったこともありません。

ユニセフが支援するストリートチルドレンのセンターができたのは2年前。当初、親の多くは、子どもがお金を稼がなくなるから、とセンターに来ることに反対しました。センターの教員が根気強く子どもには教育が必要だと説いてまわり、今では、8歳から15歳の子どもの72人が昼間集まって、勉強したり、絵を描いたり、読書をしたりしています。

このセンターで6月、「セイ・イエス・フォー・チルドレン」の署名活動が行われました。



©UNICEF



14歳のアスマッティは1年前から読み書きを先生に教わっています。署名用紙もひとりで見ることが出来ます。アスマッティは、「すべての子どもに教育を」と書かれたところに線を引きました。彼女にはもうひとつ、ダンスを習いたいという願いがありました。彼女は用紙に「子どもたちはダンスをする権利がある」と書きました。

ハヴィーチャは知的障害がありますが、歌を歌うこともできるし、ことわざも知っています。署名用紙を読めない彼は、友達に書いてあることを読み上げてもらいました。ハヴィーチャは自分も活動に加わってうれしそうです。ハヴィーチャは、「どの子どもも仲間はずれにしないで」と書いてくれるように友達に頼みました。

センターの子どもたちはみな願いを持っています。この署名キャンペーンは彼らにその願いが実現するかもしれない、という希望を与えています。

ハンガリー
ブダペスト

私たちの声を 届けよう

欧州と中央アジア 子どものためのアジェンダに向けて
(@ブダペスト、ハンガリー: 2001/04/23-29)

グローバル・ムーブメント・フォー・チルドレンの一環として、ユニセフ、欧州評議会の若者部門、NGOセーブ・ザ・チルドレンの呼びかけで開催された若者のための国際会議には、ヨーロッパと中央アジア27ヶ国から若者の活動に中心的な役割を果たしている15~18歳の若者51人が集まりました。彼らは貧困・薬物の乱用・エイズ・失業問題・差別・子どもの過酷な労働などさまざまな問題について、レベルの高い話し合いをし、関係者を驚かせました。

イギリスから参加したクレア(17歳)の発言です。「もし、この世界で変えられることがひとつあるとしたら、子どもの生活に関して決められることすべてに子ども自身が関わることができるようになってほしいのです。政府の審議会などすべてに子どもの委員会をつくって、そこで何が起きているかを知り、意見を表明できるようにしてほしいと思います」

彼らは話し合いの結果をどんな言葉で伝えたらよいか、自分たちが持つ同じ思いをどのように表したらよいか苦心しました。彼らが最後にまとめた文書の書き出しにはこうあります。

「私たちは、若い人びとは「未来」ではなく「現在」であると考えます」



子どもと若者のための パナマ宣言

(@パナマ：2000/12/18)

ラテンアメリカ地域の21ヶ国の大統領・元首が参加して、「子どもの権利と福祉の向上」をテーマとした会議が開かれました。この会議では、近年ラテンアメリカ地域で子どものためにどのような成果があったかが報告される一方、依然として残る貧困の状況や、教育や保健のサービスが広くいきわたっていない現実も報告されました。

これらをもとに、会議で採択された「パナマ宣言」では次の目標が宣言されました。

参加各国は、

- 2015年までに義務教育を無料にする
- 2010年までに妊産婦死亡率を半分に減らす
- HIV / エイズ予防・治療研究を促進させる
- 子どもの人身売買・臓器売買・性的搾取などの罪を犯した者を罰する法律を整備する

<抜粋>

この会議の後、メキシコ政府はラテンアメリカ・

カリブ経済委員会 (ECLAC) に、ユニセフなどと、子どものための行動計画をつくることを求めました。各国の元首が、子どものためのリーダーシップを発揮することを確認し合った「パナマ宣言」の内容は、「グローバル・ムーブメント・フォー・チルドレン」の運動に大きな影響を与えるでしょう。



©UNICEF/D0195-0405/Barbour



©UNICEF/94-0959/Chantal Reignault



国の予算は、 まず子どもたちの ために！

『アラブ・アフリカ財務大臣会議』
(@モロッコ：2001/05/21-23)

モロッコ国王モハメド6世の呼びかけで、アラブ・アフリカ地域39ヶ国の財務大臣会議が開かれました。ネルソン・マンデラ氏とユニセフ事務局長 キャロル・ベラミー氏も参加したこの会議では、各国の予算を子どものために効果的に使うためにはどうしたらよいか話し合われました。

会議は、政府関係機関、民間団体、子どもたち、ユニセフが参加して「子どものための予算委員会」を設置することを提言しました。これは、子どもに焦点を当てた予算づくりを各国政府に促す「ロビー」活動の仕組みをつくるよう、財務大臣という国家財政の代表自らが呼びかけた、まれな例となりました。

また、子どものために財政的努力を行うことは国の責任であるという考え方がはっきりと打ち出されたことも注目されました。このことが、さまざまな子どもの問題を抱える参加各国の子どもに関する政策づくりに大きな影響を与えることは間違いありません。

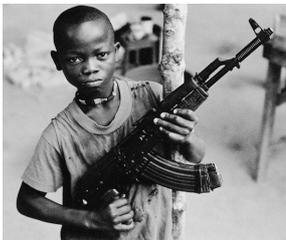
立ち向かわなければ ならない課題

武力
紛争

HIV
エイズ

貧困

各地で運動が高まる背景には、依然として子どもの権利が踏みじられている現実があることを忘れてはなりません。特に次のような状況について、一刻も早い対応が迫られています。



©UNICEF/HQ98-0494/SIERRA LEONE/
Giacomo Pirozzi

シエラレオネの12歳の子ども兵士。シエラレオネは、5歳未満児死亡率が1989年の推定値で1000人中261人、そして1999年には1000人中316人と、子どもの死亡率がこの10年でひどく悪化しています。316という数字は、現在世界で最悪の数字です。

武力紛争に さらされる子どもたち

過去10年の武力紛争によって、200万人以上の子どもが命を奪われました。また、今でも10歳にも満たない子どもたちを含め約30万人の子どもたちが兵士として働かされています。背景には、泥沼化する戦闘の中で、戦力が不足していること、子どもにも使いこなせる軽量で安価な小型兵器が広まっていること、子どもは洗脳しやすく暴力で命令に従わせられること、などがあげられます。

紛争地域の多くで、子どもたちの権利が守られる状況からはかけ離れており、国の予算は子どもではなく、ほとんどが軍事費にまわっています。

貧困、引き継がれる負の遺産

この地球上の6億人以上の子どもたちが、一日の収入が1米ドル以下の家庭で暮らしています。また、広がるHIV / エイズや紛争がさらなる貧困を招いています。

子どもが、予防できる病気で命を奪われたり、栄養不良になったりする背景には、必ずといっていいほど貧困があります。貧困は、子どもたちが学校に行く機会を奪い、劣悪な環境での労働を強めます。

貧困のためにさまざまな機会を奪われた子どもたちは、貧困から抜け出す機会を失います。貧困が次々と引き継がれていく悪循環をどこかで断ち切らなければなりません。子ども時代にさまざまな機会を得られるように支援することが、貧困の悪循環を断ち切る上でもっとも大切です。

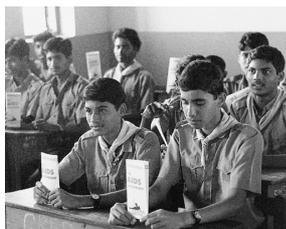


©UNICEF/93-1257
Shehzad Noorani

HIV/エイズが未来を奪う

この10年、HIV / エイズは驚異的な勢いで世界各地で拡大を続け、すべての武力紛争の犠牲を上回る数の命を奪っています。毎分6人の割合で25歳未満の若者がHIVに感染し、1999年末現在、世界でHIVに感染した人の数は3430万人にものぼっています。また、1999年末までに、1320万人の子どもがエイズで母親または両親を亡くし、その多くが路上で生活するなど過酷な生活を送っています。

HIV / エイズが広がる背景には、正しい知識の欠如、病気へのタブー視や患者や家族への差別があります。安価な治療薬の開発が急がれるとともに、これ以上の拡大を防ぐための緊急対策が必要です。



©UNAIDS/Simon Mathey

★ 1990年の「子どものための世界サミット」から10年、ユニセフは「CHILDREN FIRST!子ども最優先！」を合言葉に、世界中のすべての人びとが子どもたちの問題を私たちに共通の課題として認識し、行動してほしいと願いつづけています。

是非皆さんも、世界の子どもたちがどのような困難な状況にあるのかを理解し、その状況を学校の子どもたちに伝えて下さい。そして、皆で自分達に何ができるのかを考え、一緒に行動を起こして下さい。



グローバル・ムーブメント・フォー・チルドレン関連サイト情報

日本ユニセフ協会（日本語） <http://www.unicef.or.jp/>
グローバル・ムーブメント・フォー・チルドレン（英語） <http://www.gmfc.org/>